

高齢者接種で特設会場

7月完了へ態勢強化

県、来月末にも

新型コロナウイルスワクチンについて県は十二日、集団接種のための特設会場を六月末にも設置すると明らかにした。国が七月末完了を目標に掲げる高齢者接種の態勢を強化する。場所は、目標内の完了が厳しい福井市内を中心に検討している。(山本洋児)

新型コロナウイルス感染の数を踏まえ検討する。会場は一定のスペースが必要

になるため「それなりに広い場所」とした。使用するワクチンは、米モラルナ社製を想定している。二回目までの接種間隔は四週間、米ファイザー社製の三週間と異なる。県健康福祉部の窪田裕行部長は「できるだけ早く態勢を整えスタートしたい」と語った。特設会場の準備には、医師と看護師をどれだけ確保できるかが課題になる。県医師会との連携が必要で、杉本知事は「それなりに何とかなるかなと思う」との見通しを示した。

今後、二十三日までに十一万回分が届く予定で、国が確保したワクチンの配送が本格的に進められる。県によると、十二日にワクチンが到着したのは坂井、鯖江、あわら、大野、小浜の五市。今後の到着分も順次、県内の各市町に送られる。県内で高齢者接種の対象は、施設の従事者を含めて約二十四万人。十二日現在、約一万一千六百人が一回目を、九百八十人が二回目を接種した。政府は七月末の高齢者接種完了を目指して、今週から大量供給を開始し、六月中に高齢者全員分の配送を終える方針。ただ、配送スケジュールの判明が遅かったことや、会場や医療従事者の確保などから、市町ごとの接種体制の拡大には多少の時間がかかると思われる。福井市の東村新一市長は十一日の記者会見で、現在の体制のままでは七月末の接種完了が難しいという認識を示している。

六十五歳以上の高齢者への新型コロナウイルスワクチン接種に向けて、県内では十二日、新たに約二万一千回分のワクチンが国から届いた。各市町が確保した高齢者向けワクチンは計七万六千六百回分となった。

医療従事者向けのワクチンは十五日までに約一万六千回分ほどが届く予定で、県内の対象者約三万四千人に二回接種する分の確保が完了する。十二日現在、二回接種を受けた医療関係者は約一万四百人、一回のみは約一万五千二百人となっている。(今井智文)

県新型コロナウイルス感染症対策本部会議が県庁であり、説明した。終了後、杉本達治知事は「一般(在宅)高齢者の接種に間に合うような形で始めたい。会場は福井市内を中心に考えながらやらせてもらう」と述べた。特設会場は県営のため、対象は県民になるが、実際の利用は福井市民が多くなるとみられる。一日当たり約の接種可能な人数は未定で、用意できる接種レーン

変異株でも9割で抗体

横浜市立大の研究チームは十二日、米製薬大手ファイザーの新型コロナウイルスワクチンを二回接種した人の約九割が、日本で見つかったりほとんどの変異株に対する「中和抗体」を持つていたとの研究結果を発表した。中和抗体はウィ

ファイザー製2回接種

	1回目の接種後	2回目の接種後
従来株	57%	99%
英国株	18%	94%
南アフリカ株	21%	90%
ブラジル株	16%	94%
インド株	37%	97%
カリフォルニア株	39%	97%
ニューヨーク株	55%	98%
由来不明の「E484K変異」のある株	34%	97%

変異株に対する抗体ができた人の割合

横浜市立大が研究結果

ルスの感染を防ぐ作用があり、ワクチンは変異株に対しても予防効果が期待できるとしている。南アフリカ株やインド株といった一部の変異株は従来のウイルスに合わせて作られたワクチンの効果を弱めてしまう可能性が指摘されていた。

日本人百五人の血中に七種類の変異株などに対する中和抗体があるかどうかを解析した。その結果、二回の接種を完了した後は、99%の人が国内に広がっている従来株への抗体が確認できた。一方、国内で多く見つかっている英国株と南アフリカ株、ブラジル株では94%だった。インド株については97%が抗体を持っていた。

七種類の「変異株と従来株の全てに抗体がある人は約九割で、その割合は接種一回目よりも二回目の方が高いことも分かった。感染するかどうか実際に確かめたわけではないので異なる可能性はある。変異株に対する抗体を持つ人は従来株よりも少ない傾向はあったが差はわずかで、チームの山中竹春教授(臨床統計学)は「多少割合が落ちてもワクチンは効くのではない」と話している。

新型コロナウイルスワクチン